

理科研究部 中学 1 年 7 組 徳田光希・堀井陽澄、高校 3 年 10 組 篠田海遥、顧問 荒井賢一

「学会」というものに参加をしました。9 月 2 日(木)・3 日(金)に開催された第 38 回歴史地震研究会オンライン 苫小牧大会です。共同研究をした成果をポスターセッションで発表しました。研究テーマは、「日記から読み取れる埼玉県所沢市の 1923 年関東地震翌日以降の様子」です。この研究では、崩し字で書かれている 3 家の当時の日記を解読、考察しました。3 家の日記のうち、徳田は主に北田斧吉氏の日記を読み取りました。北田家日記は、所沢市教育委員会に崩し字をより読み取られていたため、それを解読、要約することを試みましたが、まとめるのはたいへんでした。聴講した発表の中で、特に印象に残った研究は、「災害アーカイブの可能性と継続への障壁」というテーマです。残した方が良いと思いつつも被災した人からすれば見たくないと思うので、すごく考えさせられる内容でした。歴史地震と言ってもいろいろな研究をしている人が集まるので、意見交換も違う目線からすることも出来ますし、全国そして過去の地震を大きく知ることが出来るなと思いました。楽しかったです。南海トラフについて興味を持ちました。

堀井は主に崩し字で書かれた諸星新助氏の日記を読み取るころから始めました。読み取ることや解読することが最もたいへんだったのは、関東地震が発生した翌日の 1923 年 9 月 2 日に記された諸星家日記で、一番文量が多く読むことがたいへんでした。一文字ずつ読み進めていると、地震が発生してどのようなことが起きたのか分かってきました。4人で考えたポスターを学会で発表出来て良かったです。

学会に参加をした感想を、参加させて頂いたことのお礼の気持ちを込めて学会を運営された方々に送ったところ、国立科学博物館の研究者の方から、「篠田さんもお質問されていましたし、中学生のお二人も、いろいろとポスターを回っておられたようで、良かったです。南海トラフは、特に中学生のお二人が社会人として活躍される頃には起きているかもしれない地震ですので、ぜひ関心を持ち続けていただきたいと思います」とご返答を頂きました。ご返答頂いて嬉しかったです。



「紙ぶるる」(応用地震計測株式会社)を用いた建物の構造と地震による揺れの検証実験